

森林環境税で人づくり・山づくり

古殿町 産業振興課

古殿町について



1. 福島県の東南部、阿武隈山系の標高300～500mに位置する人口5,800人の小さな町
2. 町の総面積16,347ha、森林面積13,430ha、民有林面積7,237ha(うち人工林5,446ha)
3. かつては、林業の町として栄えたが、林業従事者の減少、高齢化が進む町
4. 数人の個人事業主、町内8社の製材所、森林組合、町内2社の林業事業体が町の林業を支えている

発表内容

森林環境交付金事業開始以来、基本枠事業、重点枠事業に取り組んできたが、今回は以下の点について説明する。

1. 森林環境学習の取り組み
2. 古殿町林業活性化ビジョン
3. 古殿町森林整備計画
4. 作業道開設研修会
5. 視察研修
6. 講習会
7. イベントでのPR活動

森林環境学習

町内6小学校、1中学校が森林環境学習を実施した。
 小学校・・・林業体験、炭焼き体験、木工教室、森林観察
 中学校・・・木工教室、インターネットによる森林環境問題調査、新聞作り

地域にある自然環境、地域の林業家や炭焼き職人を指導者とした地域性のある事業を展開してきた。

古殿町林業活性化ビジョン

平成19年度に林業関係者からなる委員会を組織し、川上からの視点で古殿町の林業が抱える問題と、解決の方針を検討した。検討結果から以下の4点を重点的に取り組むこととした。

1. 森林情報の把握
2. 作業路網の作設管理
3. 木材資源の有効活用
4. 人材育成



古殿町林業活性化プラン 「古殿町森林整備計画」

～山の仕事で人も健康、森林も健康

子孫へ繋ぐみどり輝く千年の森林～

森林整備計画策定にあたり、専門家の意見と地域住民の意見を反映させるために、岩手大学の岡田秀二教授を招き、地域住民、行政関係者15人程度からなる意見交換会を開催した。

(写真は意見交換会の様子)



古殿町林業活性化プラン 「古殿町森林整備計画」

古殿町林業活性化プランの策定にあたり、以下のような作業を行った。

1. 分かりやすい将来像を掲げた
2. 全体的な構成を見直した
3. 公益的森林の名称を見直した
4. 独自のゾーニング設定を行った
5. 地域住民の意見を反映させた



作業道開設研修会(その1)

作業道を整備する目的は以下の3点が考えられる。

- 伐った木はできるだけ搬出して利用すること
- 森林所有者が所有林へ車で向うことができること
- 森林整備のコストをさげること

これらの目的を踏まえ、一つの提案として壊れにくい作業道作りを全国各地で推進している田邊由喜男氏を招き作業道の開設研修会を実施した。

作業道研修会(その2)

平成22・23年度に研修会を実施したが、反応は人それぞれであり、関係者がそれぞれ検討を重ねてより良い道づくりを推進してくれるものと考えている。



研修会前



研修会后

視察研修

古殿町林業研修会として、平成22年度・・・いわき市目兼スギ、木材市場2か所
平成23年度・・・木質チップ製造工場、畑わさびの視察を行った。

視察先の選定にあたっては、行政側の意向と地域住民の要望を合わせる形で行った。
(写真は目兼スギ視察の様子)



講習会

林業従事者に必要な講習会を実施

- 刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育
平成23年度 18名 平成24年度 28名

刈払機の安全な使用方法を住民が学ぶ機会を提供した。
今後も、「伐木等の業務に関する特別教育」など林業に関連する講習会を実施する。



イベントでのPR活動

町内のイベントにおいて、木工教室を行った。

- 親子で作るミニ風呂椅子
- のこぎりで輪切りするだけのコースター
- 竹で作る水鉄砲
- 水鉄砲を使った競技



今後の事業展望

〈森林環境教育の推進〉

1. 学校の自由な発想の事業
2. 地域特性を活かした事業

〈町主導の事業〉

1. 林業に興味のない人に興味を持たせる事業
2. 林業に興味のある人を林業の入り口に導く事業
3. 林業専門家へ技術、情報を提供する事業

〈重点枠事業〉

1. 人の目に付くものを木材に換えていく事業
2. 人が触れるものを木材に換えていく事業

最後に

森林環境交付金事業は、林業関連施策に比較的自由に使える財源である。この財源を、古殿町としては林業に携わる人を育てる事業、山の手入れが進むような事業に使いたい。

つまり、今回の発表題目

「森林環境税で人づくり・山づくり」

という目的に行き着くことになる。